

この夏から秋にかけての天気（3ヶ月予報）

7月18日に宮崎地方は梅雨明けしましたが、その後も午後から俄雨が降りやすい傾向になっています。しかし、天気が次第に安定化して来ています。

7月24日に気象庁から3ヶ月予報が発表になりました。8、9、10月の期間になります。宮崎にとっては、農業関係を始め、観光、イベントなどに気象は大きな影響を与えますので、3ヶ月予報について解説をします。

* 3ヶ月予報などの長期予報では、全体的な傾向を把握することが重要になります。そして、発表は3ヶ月予報が毎月25日前後、1ヶ月予報が毎週木曜日にだされますので、そのタイミングでチェックをされることをお勧めします。

1 全国の予報

(1) 気温

期間を通じて、平年並みかやや高い傾向で、西日本で高い傾向になっています。月別では、8月はやや高い傾向、9月は高い傾向、10月はやや高い傾向になっています。ただ、関東地方は、8月だけは平年並みかやや低い予報となっています。

(2) 降水量

期間を通じてやや少ない傾向です。8月、9月がやや少ない傾向です。10月は平年並みの傾向です。8月は、太平洋高気圧（サブハイ）が強いことや西からのチベット高気圧に覆われる予想になっているためです。

2 宮崎地方

(1) 気温

期間を通じてやや高いか高い傾向です。特に8月から9月にかけて高い傾向になると見えています。9月は最高気温が30度を超える日が連続したり、10月初旬まで暑い傾向が残る傾向です。

ただし、サブハイの位置が変わらない場合は、宮崎地方は東ないし南東の風（海風）になるため、沿岸部は平年並みの気温になる傾向です。

一方、山沿いの都城、小林、西米良などの地域では35度を超える猛暑日が予想されます。

(2) 降水量

期間を通じて平年並みかやや少ない傾向になっています。その上で、今後予想される台風の接近、上陸にも注目が必要です。最近の降雨の特徴は、一旦雨が降ると時間80mmを超える猛烈な雨が降りやすい傾向があります。

そのため、台風接近の場合、遠く離れた日本の南海上にある時から大雨が降りやすいことや、この時期宮崎では竜巻が発生しやすいため、台風の動向に警戒してください。

○不安定要素で今年の梅雨明けは前線消滅型でしたが、どうも北の寒気が強く、西日本が暑く、東日本が涼しくなる傾向が見られています。今後の動向に注目してください。